大出小・中学校閉校
五十八年の歴史に幕

大出小・中学校（菅原一（はじめ）校長）の閉校式は三月二十五日、同校講堂で開かれました。地域の人たちの総意で建設され、五十八年間、地域の人たちとともに歩んできた学校は、多くの人たちに見守られながら長い歴史に幕を下ろしました。

地域で作った学校

「子どもたちを家の近くの大出で勉強させたい」

大出小・中学校は、開拓地の大野平地区から学校までの通学が困難なことから、昭和二十三年十二月に附馬牛村立東禅寺小学校小出分校の冬季分室として開設されたのが始まりです。

昭和二十五年の校舎建築時には、県からの補助金だけでは建設資金が足りず、住民らが木炭や資材を売って資金を調達。運動会などの学校行事では、学校とPTA、地域の全世帯が加入する大出地区教育振興会が協力し合いながら、地域住民総出で盛り上げるなど、地域とともに歩んできました。

昭和四十年四月に「市立大出小中学校」として独立し、市内で唯一の小中学校併設校が誕生しました。

大出ならではの教育

早池峰山の南麓にある同校は、その立地環境や地域資源を活用した特色ある教育、小規模校ならではの取り組みを継承してきました。

昭和四十五年八月に結成した「大出森林愛護団」では、野鳥観察や巣箱の設置、早池峰山清掃登山など自然愛護や環境美化活動を実施。昭和四十八年からは、地域に伝わる早池峰神楽の伝承に保存会員の指導を受けながら取り組みました。

最後の別れ

ピーク時には八十五人に達した児童・生徒の数も、急速に進む少子化の影響で年々減少をたどり、教育環境の整備に伴い本年度をもって閉校することになりました。

三月二十五日には閉校式が行われ、児童・生徒や教職員のほか、卒業生や地域住民などおよそ二百二十人が出席。

最後の児童・生徒となった千葉桃（もも）さん（小学四年）、菜々（かなな）さん（小学六年）、阿久津克輝（かつき）さん（中学三年）が「大出小中学校で学ぶことができて本当に良かった」「人数が少なくても助け合いながら向上心を持って生活してきた」「閉校を通して学んだことを、これからの生活に生かしたい」など学校生活の思い出やこれからの抱負を語り、「さようなら、ありがとう、大出小中学校」と締めくくりに別れの言葉を述べました。

別れの言葉を述べる三人の児童・生徒

● interview インタビュー

大出小中学校校長
菅原　一（はじめ）さん

子どもたちには、大出で学んだことを誇りに、チャレンジ精神で頑張ってほしいです。

4月からの新しい環境や仲間とともに、充実した学校生活を送ることを期待しています。

大出小中学校ＰＴＡ会長
阿久津勝彦（かつひこ）さん

4年前、ＰＴＡ会長に就任したときには、最後の会長となるとは思いもしませんでした。

いろいろなことが思い出されますが、今は最後までやり遂げた充実感と、感謝の気持ちでいっぱいです。

交流人口の拡大と定住促進に向けて
でぐらす遠野
ふるさと遠野定住プラザ

●永遠の日本のふるさと遠野

定住促進で地域を活性化
受け入れの総合窓口設置

団塊世代といわれる昭和二十二年から二十四年生まれが今年から大量に退職し始めます。

市は、少子高齢化や人口の減少による地域活力の低下が懸念される中、地域の活性化を図るために、ふるさと回帰志向を持つ人が多いこの世代の人たちを中心に、遠野への定住化を進めています。

その推進組織が昨年十月に設置された「で・くらす遠野」。行政の推進委員会と、商工会や観光協会等の関係市民団体で構成するサポート市民会議により、市民協働で取り組んでいます。

主な業務は、①「で・くらす遠野市民制度」による定住交流の促進②空き家や遊休農地等の情報の収集・発信③遠野暮らしアドバイザーの配置など定住化に向けた支援体制の整備④各種相談や受け入れの総合窓口など。昨年十月以降は三世帯が遠野に定住しています。

ふるさと市民制度と遠野ブランド「トネーゼ」の認証

遠野に関心があり行ってみたい、もっと知りたいという遠野ファンを拡大するために、会員になると特典が受けられる「で・くらす遠野市民制度」を設け、交流人口の拡大を図ります。

また、遠野を知ってもらうためには「もの」を通じたPRも重要。物産販売を増進するため、「遠野」の名前にこだわり、遠野で長年培われてきた「もの」や「こと」を商品展開していく遠野ブランド「トネーゼ」認証制度にも取り組んでいます。食品やインテリア、時間（空間）など安心・高品質、法令順守の徹底、顧客との対応力など一定の認証基準を設定。三月二十二日には第一回の認証式が行われ、菓子や漬物、家具など十八品目が認証されました。認証シールなどによって一般的な特産品とは区別し、遠野の食や生活文化へのこだわりを明確にし、ブランドとしてのパワーを発信していきます。

トネーゼ認証シール

情報の共有化により市民協働による推進

定住促進の全国的な動きの中で、豊かな自然とのどかな田園風景、貴重な文化など、遠野の魅力を最大限に活用し、全国に発信していかなければなりません。そのためには、定住希望者への住居や農業体験の場情報、Iターン・Uターン者情報、親戚知人など市外居住者への情報提供、定住者に地域的活動への誘導など、市民との情報の共有が不可欠。住む場、働く場の確保、医療・教育環境の充実など生活基盤の整備に努めながら、首都圏でのPRを展開し、定住化を推進していきます。

◎問い合わせ＝で・くらす遠野（ふるさと交流課内☎㊷2111内線138）

私たちからひと言

土淵町
保坂忠晴（ただはる）さん

広い農地がほしいと思い、就農を学びながら探していました。家のすぐ近くに農地がある現在の地に埼玉から定住して二年。農業のほか、地域行事にも参加しています。定住者への情報提供を迅速に行うことが大事で、情報を流し、親身になって対応してくれる市民サポートなどの人的体制を整備することが必要だと思います。

松崎町
下　弘明（ひろあき）さん

ＮＰＯ法人で定住支援をしてきました。農業をやりたい人、田舎に住みたい人と、目的や年代も異なり、土地、建物、働く場など、定住を希望する人へのたくさんの選択肢を持っていることが必要でした。市が施策として定住に取り組むことは意義深いこと。定住を目指す人たちへの情報発信と受け入れる側のネットワークの活性化を期待します。